（別添４）

【木城町】

１人１台端末の利活用に係る計画

1．1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

　１人１台端末及びクラウドを活用して児童生徒自身が学びを自己調整し、個別最適かつ協働的に学ぶことで、主体的・対話的で深い学びが実現した姿。

2．GIGA第1期の総括
　１人１台端末の整備については、2021年度に整備率100％を実現した。ネットワークの整備については、2023年度に木城小学校と木城中学校を統合したみどりの杜木城学園の開校に合わせ、ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークを整備した。整備した1人1台端末及び通信ネットワークを活用した学びの実践については、個別最適な学び及び協働的な学びを実現するためのソフトウェアを導入した。その結果、授業のまとめの場面や家庭学習の教材としてソフトウェアの活用が進み、個別最適な学びが実現されている。また、児童生徒が自分で調べる場面や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でもソフトウェアの活用が進み、協働的な学びにつながっている。

　明らかになった課題としては、1つは端末が故障した時の対応がある。修理に出している間は予備機で対応するが、時期によっては修理から戻ってくるのに長い時間がかかり、残り少ない予備機で対応に苦慮した。GIGA第2期では、十分な予備機を整備することで、この課題を解決していく。

3．1人1台端末の利活用方策

　十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、１人１台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

（1）「１人１台端末の積極的活用」

　　授業や家庭学習、学校・家庭間の連絡等、様々な場面での１人１台端末活用を進める。

（2）「個別最適・協働的な学びの充実」

　　端末を利活用した学習課題への取組により、理解度や学習速度に合わせた個物最適な学びを進める。また、「調

べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

（3）「学びの保障」

　　不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等に対して、その実態に応じて端末を活用した支援を実施する。